

図 6. 桜島 南岳山頂火口の状況（上：2006年10月30日撮影（海上自衛隊の協力による）、下：2007年1月12日撮影（大隅河川国道事務所の協力による））

た。昭和火口では、噴火は発生しなかったが、弱い噴気が時々観測された。

1月12日に行った上空からの観測（大隅河川国道事務所の協力による）では、2004年11月以降、土砂等が堆積していたB火口内に噴火によると見られる孔が開いているのが確認された。噴出物や噴煙の状況から、2日の爆発的噴火はB火口で発生したと推定される。

2月16日に行った現地観測では、昭和火口周辺に継続して高温域が認められた。

火山性地震や火山性微動はやや多い状態が続いており、振幅や火山性微動の継続時間がやや増大する傾向が認められている。GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されている。

●薩摩硫黄島（30°47'35" N, 130°18'19" E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

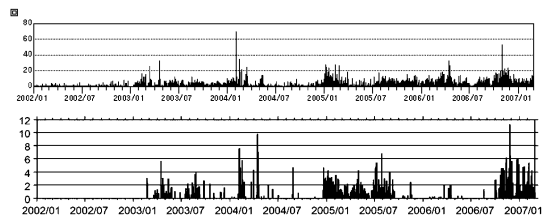


図 7. 口永良部島 火山性地震（上）及び火山性微動（下）の発生状況（2002年1月～2007年2月）

●口永良部島（30°26'36" N, 130°13'02" E（古岳））
火山性地震及び火山性微動がやや多く、新岳火口周辺で熱活動の高まりが観測されている。

火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。

1月12日に行った現地調査では、新岳（しんだけ）火口内及びその周辺で引き続き熱活動の高まりが認められた。

京都大学防災研究所及び産業技術総合研究所のGPSによる地殻変動観測によれば8月以降新岳火口付近の膨張傾向が認められていたが、気象庁のGPSによる観測では新岳の膨張を示す傾向は昨年12月以降鈍化している。

遠望カメラ（新岳（しんだけ）の北西約4kmに設置）による観測では新岳火口周辺の噴気地帯で高さ10m程度の弱い噴気が時々認められた。

▲諏訪之瀬島（29°38'18" N, 129°42'50" E（御岳））

1月9日、10日、28日、2月5～7日、19日、20日に爆発的噴火があった。このほか、十島（としま）村役場諏訪之瀬島出張所によると、小規模な噴火も時々発生した。2月20日には一日で16回の爆発を観測した。

火山性地震はやや多い状態で経過した。また、噴火活動に伴い火山性連続微動が発生した。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

火山活動解説資料

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

（文責：気象庁地震火山部火山課 相澤幸治）

○教員公募

【北海道大学理学研究院自然史科学研究部門地球惑星ダイナミクス分野】

1. 職種・人員：自然史科学部門地球惑星ダイナミク

ス分野 准教授・1名

2. 専門分野: 測地学及び関連する研究分野を広い視野に立って推進する方
3. 着任予定時期: 決定後できるだけ早い時期
4. 応募書類:
 - (1) 履歴書(国内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト, 研究歴, 各種研究費受領歴, 非常勤講師の経歴などを含む)
 - (2) これまでの研究経過 (2,000 字程度)
 - (3) 研究業績目録(和文のものは和文で表記すること)
 - A. 査読のある論文および総説
 - B. 査読のない論文および総説
 - C. 著書
 - D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるもの
 - (4) 主な論文別刷または著書 5 篇(複写可)
 - (5) 今後の教育・研究の計画と抱負(2,000 字程度)
 - (6) 教育経験がある場合, これまでの教育活動の概要(1,000 字程度), 学位審査履歴(主査・副査のほか実質的指導を含む)
 - (7) 応募者について照会が可能な方 2 名の氏名と連絡先
5. 応募締切: 2007 年 4 月 30 日(月)(必着)
封筒の表に「教員公募(地球惑星ダイナミクス)関係」と朱書きし, 書留にて郵送すること。なお応募書類は返却しません。
6. 公募締切後の選考段階で, 面接あるいは講演会等を行うことがあります。
7. 書類の送付及び問い合わせ先:

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門

地球惑星ダイナミクス分野 小山順二

電話: 011-706-3526 ファックス: 011-746-2715

電子メール: koyama@mande001.sci.hokudai.ac.jp

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門・地球惑星ダイナミクス分野

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/dyna-admin/geodynamics>

北海道大学大学院理学研究院/理学院・理学部

<http://www.sci.hokudai.ac.jp>

北海道大学理学部地球科学科

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/guide/earth/index.html>

なお, 教育・研究は研究室制で運営されており, その構成は変更が可能です。

地球惑星ダイナミクス分野では全教員が

大学院教育: 大学院理学院自然史科学専攻

学部専門教育: 理学部地球科学科全学教育(理学及び他学部の主として 1 年生の教育)

の教育(講義・演習・実験)と研究指導を行っています。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 8 日送信しました)

○教員公募

【北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星システム科学分野】

1. 募集人員: 自然史科学部門地球惑星システム科学分野 助教 1 名
2. 募集分野: 宇宙地球化学
同位体顕微鏡*のオープンファシリティ**装置としての運用とそれをを用いた宇宙科学から生命科学にわたる新研究分野の開拓のための基礎研究の推進
* <http://vigarano.ep.sci.hokudai.ac.jp/> を参照のこと
** <http://www.cris.hokudai.ac.jp/openfacility/> を参照のこと
3. 応募資格等: 着任時に博士の学位を有すること。本分野の教員と連携して研究・運営を行えること。学生の教育に熱意をもって取り組めること。
4. 任期: 2012 年 3 月 31 日まで。
5. 着任時期: 採用決定後, できるだけはやい時期。
6. 提出書類
 - (1) 履歴書(内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴なども記載すること)
 - (2) これまでの研究・教育の実績(2,000 字程度)
 - (3) 研究業績リスト
 - A. 査読のある論文
 - B. 査読のない論文
 - C. 著書, その他特記すべき出版物
(いずれも和文のものは和文で表記すること)
 - (4) 主な論文の別刷(コピー可) 3 篇以内
 - (5) 今後の研究・教育の計画・抱負(2,000 字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2 名)の氏名および連絡先(所属, 住所, E-mail)
7. 応募締め切り: 2007 年 5 月 7 日(月)必着
封筒の表に「助教公募書類」と朱書きして, 簡易書留・宅配便等で送付してください。
8. 提出書類の送付先
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門
地球惑星システム科学分野 藤野清志

e-mail: kiyoshi-fujino@mail.sci.hokudai.ac.jp

Tel: 011-706-2728

9. 問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星システム科学分野 塚本尚義

e-mail: yuri@ep.sci.hokudai.ac.jp

Tel: 011-706-2725

10. 自然史科学部門地球惑星システム科学分野および関連組織については以下のホームページもご覧ください。

自然史科学部門地球惑星システム科学分野, 自然史科学専攻地球惑星システム科学講座

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/sys-web/sys-web/>
理学部地球科学科

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/guide/earth/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 6 日送信しました)

○2007 年度「信州フィールド科学賞」募集要項

1. 賞の趣旨

信州大学山岳科学総合研究所は, 山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました。山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です。多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり, フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め, さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから, 「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました。

2. 募集対象

・「信州フィールド科学賞」

山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者(2007 年度末で 35 才以下)を対象とします。研究対象や分野は問いません。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I 種: 山岳地域においてグループで調査活動を行っている高校生を対象とします。

II 種: 山岳地域のフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学等の(過去 3 年間に提出された)卒業論文を対象とします。

3. 受賞

・「信州フィールド科学賞」: 受賞者は毎年度 1 名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞 20 万円を贈呈します。

・「信州フィールド科学奨励賞」: 受賞者は毎年度 I 種: 1 グループ, II 種: 1 名とします。それぞれに, 信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞 10 万円を贈呈します。

4. 募集期間 2007 年 4 月 1 日～7 月 31 日

5. 応募方法

応募の書式は山岳科学総合研究所の Web サイト <http://ims.shinshu-u.ac.jp/> からダウンロードしてください。

・「信州フィールド科学賞」

自薦を基本とし, 応募の際に必要なとする書類は, 山岳地域におけるフィールド・ワークの実績・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけなどを 2000 字程度(A4 用紙で 2 枚以内)にまとめた調書, 研究業績調書(口頭発表を含む)及び論文等の別刷です。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I 種(高校生): 応募の際に必要なとする書類は, 活動実績を示す調書, 調査活動によって得られた成果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。

II 種(卒業論文): 応募の際に必要なとする書類は, 山岳地域におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を 2,000 字程度(A4 用紙で 2 枚以内)にまとめた調書, 卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

6. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し, 山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て, 山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

7. 授賞式

授賞式は 2007 年 11 月 17 日に松本市で行い, 受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

8. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに, 電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は, 2007 年 7 月 31 日必着をお願いします。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

電話: 0263-37-2432

FAX: 0263-37-2438 sinnshuu

e-mail: suims@shinshu-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 6 日送信しました)

○COV5 セカンドサーキュラー

Cities on Volcanoes 5 Conference (第5回火山都市国際会議島原大会)の参加登録および講演申し込みの受付を開始しました。以下の英語ページに詳細情報が掲載されています。また、英文セカンドサーキュラーもそこからダウンロードすることが可能です。会議と一緒に開催される国際ワークショップの案内も載っています。

<http://www.citiesonvolcanoes5.com/>

(日本語ページは更新ができていませんが来月には案内できる予定です。)

日本人による講演申込は、日本語要旨と英語要旨の両方の提出が必要となります。会議ボランティア(学生アルバイト)については追って募集します。

【今後のスケジュール】

講演申込〆切: 5月31日

早期登録〆切: 6月14日

日本火山学会秋季大会: 11月18日(日)

COV 受付開始: 11月18日午後

アイスブレイカー(火山学会懇親会): 11月18日夕方

COV 会議: 11月19-23日

COV5 実行委員長 中田節也

COV5 事務局

FAX +81-957-65-5542

e-mail: convention@citiesonvolcanoes5.com

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月7日送信しました)